

地域×ユースワーク

地域に飛び込んで見えた若者の可能性と成長

発表：浅野 暖斗

1.発表概要

私は高校生の時から地元栃木県栃木市で地域に飛び込んで様々な活動が続け来ました。城西大学に進学し、「誰に対してまちづくりがしたいのか？」という問いとともに活動

を続ける中で“ユースワーク”に出逢いました。

その“ユースワーク”と“地域”を掛け合わせた今までの実践を発表します。

2.活動概要・フィールド



蔵の街ユースインフォメーション 蔵の街高校生ボランティアスクール

栃木市の市民活動センターで運営している、若者と市民活動団体をつなぐ、ボランティア紹介プラットフォーム。月1～3回を目安に公式LINEとInstagramを利用して、栃木市内の高校生を中心とした若者にボランティア情報を届けている。（運営：とちぎ市民活動推進センターくらら）

栃木県内全体



とちぎユースワークラボめめくる

栃木県内の若者に向けた取り組みが弱いという課題感から、県内出身でユースワークの研究・実践をしている大学生、大学院生が集まってできた団体。現在はユースワークを通じて栃木と栃木の若者のこれからを考える連続ワークショップを開催している

栃木県内全体

3.具体的な活動内容

蔵の街ユースインフォメーション 蔵の街高校生ボランティアスクール



とちぎユースワークラボめめくる



- ・昨年度～今年度初めまでは県内の施設見学をしていた
- ・下半期から連続ワークショップを実施し始めた

右：SNS（以前はnote）と公式LINEでの情報発信

左：毎年8月に実施する高校生に向けたボランティアPGM



地域連携活動発表会

2024

4.プロジェクトを実施しての若者の変化

蔵の街ユースインフォメーション
蔵の街高校生ボランティアスクール



①地元の高校生との親鸞関係が生まれた。
また、市民活動団体とのやりとり、高校生の意見を大人に届けるなど中間支援の難しさを体感した。

②高校生がスクール終了後の振り返りの時に嬉しかったこととして、「障害を持っている人の見方が変わった」と上げていて地域に出たことでの内面の変化があった。

とちぎユースワークラボめめくる



・栃木に見学をしに行ったことで、自分たちが所属する団体である、認定NPOカタリバに施設に見学に行くなど、“行政を主体とした”アクションがあった。

・WSはまだ始動したばかりなので変化は見られないが、今後、栃木県内で若者が主体とした変化があることを期待する

5.まとめ

蔵の街ユースインフォメーション
蔵の街高校生ボランティアスクール



①今後、発信媒体noteからInstagramにしたことで、情報発信の強化をしていきたい。また運営体制の見直しを行っていく

②来年の実施に向けて今期の振り返りと、来年に向けてのタスクの洗い出しをしていく

とちぎユースワークラボめめくる



・次回のワークショップの実施に向けてプログラムの作成をする

・来年度の向けのミーティングの実施し、今後の展開を考えていく

6.その他（自己紹介など）

浅野暖斗 21歳



栃木県栃木市出身。高校生の時に、地元で学校の垣根を越えてまちづくりを行うサークル「とちぎ高校生蔵部」に加入し、2年間部長を務める。

大学進学後、障害児支援や地域メディア、学習支援などの活動を行ったのち、ユースワークに出逢い、認定NPOカタリバでの活動を始める。休学中にとちぎ市民活動推進センターくらら、NPO法人青二才での活動などの活動を経験し現在もユースワークの活動を続けている。

各SNSや過去の掲載などは
こちらから！



地域連携活動発表会

